

教育・保育目標		心身ともに健やかでいきいきと生活する子どもの育成		重点目標 気づき・トキメキ・ヒラメキを深める環境作り ～チームでの語り合いを通して～			
重点項目		達成目標・具体的施策		年度末評価（成果・課題・改善策）		学校関係者評価	
学びの場である保育の充実	肯定感「愛情」を基とした自己構築	・「生きる力」の土台となる自己肯定感を育むため、関わり方や声掛けについて職員間での話し合いを7月、11月、2月の年3回実施し、内容を職員間で共有する。（少人数グループ、事例研究を通して話し合う機会を設ける。）		・月はずれたが予定通りの回数を実施した。グループ内で話し合った内容は図式化し書面にまとめ、回覧することで共通理解を図った。「自己肯定感」や「心の安定」をテーマに話し合うことで、子どもへの関わり方や声の掛け方について見直す機会になった。保護者アンケートで肯定的な回答が98.8%であった。次年度も職員全体で愛情深い教育・保育を行っていく。		充実した研修で具体的な対応の仕方について共通理解がなされていることがわかる。	
	健やかな体の育成	・調理の職員が旬の食材に関する掲示を作成すると共に、子ども達に話をする機会を年4回持つ。 ・HPを活用して保護者に食育について啓発していく。今年度、新たに年4回レシピの掲載をして食の大切さを伝える。 ・健康や生活習慣の「ほけんの話」を年10回行う。またほけんだよりやHPで保護者にも啓発する。 ・健やかな体作りに繋がる遊びについて、幼児クラスでは年計画を立てて取り組んでいく。乳児クラスでは、室内・廊下などを活用して運動遊具を設置する。		・調理職員が子ども達に話をする事で、興味を持つ子どもの姿があった。掲示も計画通り作成できた。 ・保護者からの依頼で、給食のレシピを紙ベースで8回紹介した。しかし、HPへの掲載は3回であった。紙ベースでのレシピの反響が良かったため、次年度は検討する。 ・計画通りできた。「ほけんの話」の内容を保護者に知らせていく機会が少ないため、その様子や内容を知らせる方法を検討する。 ・幼児では年計画があることで見通しを持ち取り組むことができた。体を動かすことに積極的な子どもが増えた。乳児では常設は難しいが全身を動かす環境をプレイルームに用意し遊ぶ日を多く持った。また、講師より園庭の固定遊具の様々な遊び方について学んだことで、保育者の子どもへの誘い方が豊かになり遊びの幅が広がった。		具体的な目標を立て、計画・実践につなげられている。 家庭と園が共に子どもの生活習慣を確立させていけるように情報の共有を図りたい。	
	資質・能力を育む保育の推進	・幼児クラスでは、月1回以上棟毎に各クラスで深めている遊びを付箋を用いて図に記して共有し資質・能力を育む環境の再構成をする。 ・乳児クラスでは、「資質・能力読み取りシート」を活用して、子どもの姿を読み取り語り合う機会を月1回以上持つ。		・幼児では付箋だけにとらわれず様々な方法で職員間の共通理解を図った。図式化することでわかりやすく、環境の再構成や共通理解に役立った。今年度より取り組んだウェブマップが活用しやすかったので来年度も活用したい。 ・乳児では、計画通り取り組むことができた。付箋を用いて気付いたことを出し合うだけでなく、簡潔に資質・能力の視点で文章化する機会も作ってきたことで、連絡ノートに記入する際にも活かすことができた。		図式化する方法や付箋を用いて気づきを出し合う方法など、資質の向上の連携方法を工夫されている。	
	ちがいを認め合える仲間づくり	・幼児クラスでは、子ども皆が自分の思いを出し認めあえる対話の場をもつ。週に1度は全員の子どものにスポットがあたるようにする。 ・クラス皆の遊びの姿の写真を、乳児は2か月に1度掲示し、幼児は手紙として渡す。そうすることで保護者が自分の子どもだけでなく、他の子どものよさにも気づけるようにする。		・幼児は年間を通して様々なテーマで対話を行ってきたことにより、自分の言葉で伝えることに意欲的な子どもが増えてきた。また、保育者も子ども達が様々な意見や考えをもっていることに気づく機会となった。1月2月に4・5歳児の異年齢少人数グループでの活動に取り組んだ際にも対話に重きを置いた。人数が少ない方が意見を出しやすい子どもがいることを鑑み、来年度は対話の場の在り方をより工夫する。 ・乳児幼児共に計画通り取り組んだ。保護者アンケートにおいて肯定的な回答が96.9%という結果であった。		一人一人の持ち味を受け入れようとする仲間づくりをよい形でなされている。 保護者が、他の子どもを知り認めることで子ども同士の関係もよくなる。他の子どもや保護者を知る機会も重要である。	
保育者の資質向上	園内研究の充実	・講師を招聘した園内研究公開保育を年1回、園内園外の研修に参加し、得た知識を実践に活かす。 ・トキメキ・気づき・ヒラメキが深まる保育環境を構成するため、乳児、幼児、共にチームで子どもの姿を共有して環境を再構成する機会を月に1回以上もつ。（幼児木曜日、乳児月末火曜日）		・園内外での研修や他市への視察で学んだことを活かしたことで、同僚性や保育の質の向上に繋がった。幼児では今年度は特に縦・横のクラスを超えたチームでの共有・協力を意識し合ったことでよりよい教育・保育の在り方を皆で検討し創造することができた。乳児ではわらべ歌や造形的な活動の計画を立てて実践することで、活動が豊かになった。次年度も研修で学んだ知識を活かすための計画やその共有が必要である。 ・チームでの語り合いや、環境構成は計画通り行った。		園内外での研修を積極的になされ、情報交換の活性化により、チームワークよく保育活動に取り組まれている。	
	チーム保育の推進	・職員間で互いのよさや感謝を伝え合う機会を年3回（6月・10月・2月）に設ける。（6月はクラス・10月は乳幼児、2月は教職員アンケートを基に全体で話し合う。）		・今年度は保育のことだけではなく、職員同士が互いのことを知るために“ジョハリの窓”のワークを取り入れたことによって職員一人一人の個性をより深く知り認め合える機会をつくることが出来た。 ・朝夕や短時間勤務の職員と教育保育について共有する機会が少ないため来年度はどのような機会を設けていくのが課題である。		職員の持ち味を認め合う研修記録を回覧し、メッセージを追記することで共有できるかもしれない。	
	小学校教育との連携	・小学校の研究会や接続に関する研修会に参加する。小学校へ本園の研究会や参観への案内をする。教育・保育活動についての理解を図る工夫をする。 ・校庭やプールの利用、授業見学、業間交流など子どもが小学校を身近に感じる機会をもつ。		・8月に大きくなったDAYでの5歳児の取り組みを神津小学校に資料で配布し、ほとんどの職員の方から感想をいただけることは有効であった。次年度はさらに意見を交流できる場をもてるようにしていきたい。 ・神津小学校の協力のもと、多くの時間を学校で過ごすことができ、子どもや職員共に小学校を身近に感じる事ができた。		子どもの入学後の安心感につながるよう今後も接続を密に願いたい。 こども園の熱心な取り組みについて小学校で共通理解できた。	
	地域との連携	・Kメゾンときめきと交流、地域の畑の訪問・年2回神津交流センター訪問。ひょうたんの栽培と絵付け、餅つき、さつま汁を地域の方と共にに行い、子どもの「生きる力」の育成に努める。		・計画通り行った。ときめき交流についてはコロナ前に行っていたことも入れた計画を残すことで次年度に引き継ぐ。子ども達や職員が地域に出てさらなる交流等を持つことや、地域との連携を保護者に知らせていきたい。		地域の方と子どものふれあいの機会を今後も充実されたい。 新しい出会いの場による子どもの成長は大きい。	
開かれた・信頼される園づくり	子育て支援事業	・HPで月1回以上（年間12回）はむくむくルームの様子を載せ、利用者増を目指す。 ・乳児では数日に分けて少人数での参加・参観とその後の交流会を行う。幼児では保護者同士が語り合いやすい懸念の持ち方を工夫する。 ・全保護者と積極的に会話をする機会をもち、子どもの育ちの共有を図る。		・計画通り行い、新規の利用者が増加した。園庭で遊べるのが魅力の1つであり、その目的でのリピーターが多かった。 ・少人数ずつでの参観や懇談会はコミュニケーションを図りやすかった。 ・幼児クラスでは異年齢での活動を行ったことで、クラスを超えた保護者との関わりをもつきっかけができた。多角的な視点で一人の子どもの育ちを見ることができても園のよさを、子育て支援に活かしていきたい。		コロナ禍後、整がりの場のニーズに応じられたい。 懇談でのコミュニケーションの充実により、教育・保育の中での大切なことを保護者に理解していただけている。	
	学校園の積極的な発信	・ホームページを週2回配信する。 ・昨年度に引き続き保護者アンケートにおいて肯定的な回答の割合を保つ。（昨年度→94%） ・保護者と職員と共に、園内リスクマップの見直し・園庭整備を行う場を年に1度ももつ。また、絵本の修理を可能な保護者の方に頼み、保護者と共によりよい教育・保育環境を築く。 ・グーグルクラスルームを利用し（幼児のみ）各学年隔週で子どもの姿の写真や活動の過程を配信する。 ・全職員がアイデアを出し合いながら動画を定期的に配信し、動画の有効的な活用方法を探る。		・ホームページの更新の目標回数は達成した。 ・保護者アンケートにおいて肯定的な回答率が96.3%になった。（昨年度は94%） ・ほぼ計画通り行った。来年度よりPTAがなくなるが、保護者と園が共によりよい教育・保育環境を築くための機会を持つていく。 ・Google クラスルームでは子どもの遊びや園行事に応じて動画を配信した。「子どもの声があり、具体的な遊びの様子が分かる」と保護者からの声があった。他にも個々の写真や遊びの過程をドキュメンテーションで保護者にPDFを配信した。 ・来年度からは保育システムに移行されるので使い方・配信方法を周知し、積極的に配信できるよう、有効的な活用方法を考えていく。		年々活用の仕方もレベルアップされているので、子どもの姿が可視化され、保護者の信頼も得られている。ただし、働き方改革も視野に入れ、回数には無理のない範囲にされたら良いと考える。	
	備考	・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。					
学校関係者評価総括				次年度に向けた重点的な改善点			
・計画内容が具体的に、ほぼ完全実施され、子どもが安心して楽しく通える温かい環境づくりがなされている。 ・全職員が同じ方向性で取り組み、コミュニケーションを大切にしながら、子どもの主体性を伸ばされている。 ・小学校の道筋を意識されながら教育・保育に取り組んでおられ、幼い時期に経験することが今後の教育活動に活かすことが予想される。				・子どもと保育者が共主体となる教育・保育の推進（主体的・対話的・深い学び） ・チームで教育・保育を行うための、有効的な保育計画の作成の工夫 ・新たな保育システムの活用			